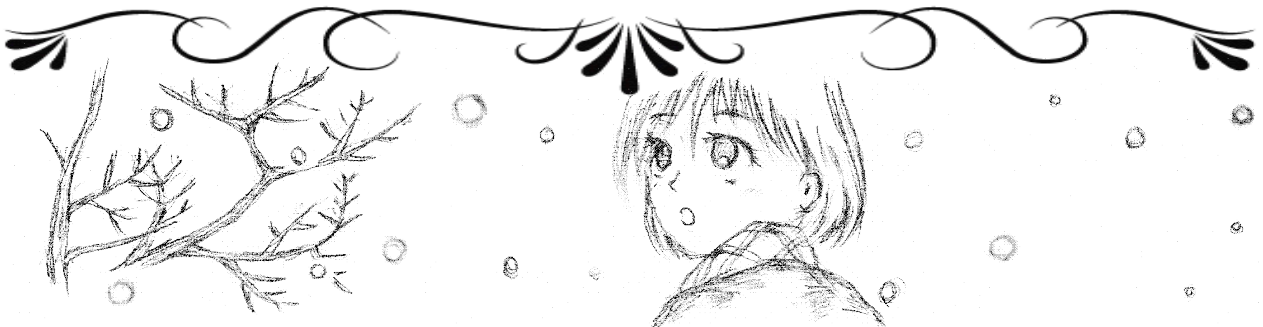


ボランティアグループがつくる和歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本よんだ？

～りいぶる BOOK プラス～



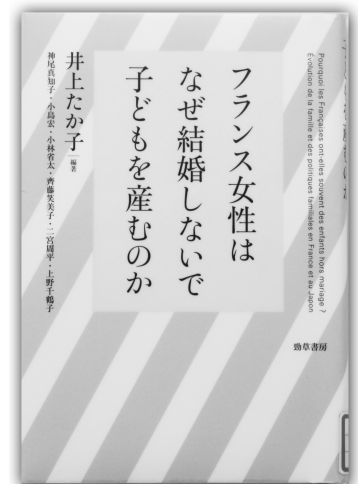
「フランス女性はなぜ結婚しないで子どもを産むのか」

井上たか子 編著 頸草書房 2012年 (A:フェミニズム)

「フランス女性はなぜ結婚しないで子どもを産むのか」というタイトルを見て、「家族が崩壊しているのか」と疑問を持つ方もいるのではないのでしょうか。そうではなく、フランスでは、法的な結婚とは別のカップルの形態（PACS）が法律上も社会的にも認められています。この形態を選択し、子どもを持つカップルが大部分を占めているのです。そして、フランスは先進国の中でも出生率が高くなっています。

この本では、専門家の方々がそれぞれの立場からフランスと日本の少子化対策、家族問題について論じています。それらの日仏の比較を読み進めるうちに、日本の結婚、出産の現状の問題点が明らかになってきます。それは、結婚とPACSというような婚姻上のステータスの問題のみならず、家族観や出産・子育てに対する国の支援といった問題にまで及びます。

もちろんフランスの制度にも問題はあるし、日本がそれをまねたとしても、出生率などの問題解決につながるかどうかは不透明です。しかしフランスがそうであるように、「親の婚姻上のステータスにかかわらず子どもが平等に扱われる社会をめざすこと」は女性が安心して子どもを産み、育てられる社会を作ることに繋がるのではないのでしょうか。この本を読むことが、女性の結婚や出産に関する問題点を改めて考えるきっかけになると思います。 (A.T)



「ハピネス」

桐野夏生 著 光文社 2013年 (K:エッセイ・文学)

この本は東京のベイエリアに建つタワーマンション（超高層マンション）の29階に住む3歳児をもつ専業主婦の有紗を主人公としている。夫は離婚を言い渡して、アメリカに単身赴任。いつも女の子と高層の密室に二人で暮らしている。

高層マンションにはご近所づきあいもないが、いつの間にか高級なものを持つカッコいい3歳女児のママ友（子育て仲間）5人と平日、子どもを遊ばせるようになった。高級マンションの3歳児をもつ専業主婦のママ友の関係は微妙である。それは3年保育の有名私立幼稚園にいれる年だからだ。お受験の準備をしないといけない。そのためママ友どうしの微妙なさぐりあいや情報交換がある。有紗はカッコいいママ友たちの仲間にはいつの間にか満足していたが、ある日自分が人数あわせの「公園要員」であったことを知る。子どもの社会性を養うために友だちと遊ばせることが必要だからそのための人だったのである。

有紗を中心に、夫婦関係、夫の実家との関係、ママ友たちの動向を描く小説である。女性雑誌「VERY」に連載されたものを書き直し、読売文学賞を受賞した。(か)



「人生がときめく片づけの魔法」

近藤麻理恵 著 サンマーク出版 2011年 (O:その他)

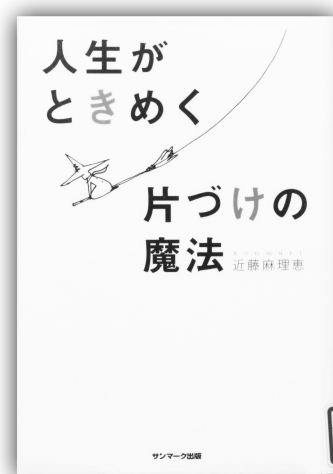
本書は、2011年に初版が出されてから半年ほどで100万部を突破した、片づけ後のリバウンド率ゼロ、従来の「片づけの常識」をひっくり返す決定版である。

作者は、片づけとは、「過去の人生に片をつけること」と言う。つまり家の中を劇的に片づけると、その人の考え方や生き方、そして人生までが劇的に変わってしまい、人生全般がうまくいき始める。だから「魔法」なのである。

以前「断捨離」という言葉が流行したが、ここでは片づけにおける正しいマインドを身につけて「片づけられる人」になるための方法が書かれている。つまり片づけはマインドが9割だと作者は述べている。

実際にどうすれば片づけられるのか。それは「モノ別」に片づけることが大事で、「衣類の正しいたたみ方」など具体的にその方法が書かれてある。そして触った瞬間に「ときめき」を感じるかどうかで判断し、モノを捨てる前に「理想の暮らし」を考えることだという。また捨てられないと思ったときの対処法として、「ときめかないけど捨てられない」モノに対して一つ一つその本当の役割を考えてあげることによって、モノとの関係に「片をつける」ことができる書かれてある。

人生がドラマチックに変わる片づけの魔法、まだの方は是非この魔法で、大好きなモノに囲まれたときめきの毎日を過ごされますように…。(花賀)



「〈性〉と日本語 ことばがつくる女と男」

中村桃子 著 日本放送出版会 2007年 (A:フェミニズム)

「最近の日本語は乱れている」とよく言われる。正しい言葉づかいはどうだったかなどと、つい気になってネットで検索したりするのであるが、本書は日本語について今までにない視点を与えてくれている。

著者は、言語学が専門で「ことばとジェンダー」についての研究者である。本書では、「言語資源」という概念を駆使して、日本語がいかに異性愛規範（異性愛を唯一正しい性愛関係に見せかける働きをする社会制度などのこと）と結びついているかを語っている。一見難しそうな内容であるが、随所に引用される漫画や恋愛小説、雑誌、翻訳などの例がとて面白く、興味深く読み進められるのが本書のすばらしいところである。

例えば、ここではとても引用できないが、ハーレクイン・ロマンスの恋愛小説と日本の恋愛小説を比較し、外国のものは執拗に身体描写が多いことを指摘している。一体、どうしてこのような違いがおこるのだろうか。興味のある方は、ぜひ一度本書を読んでみていただきたい。(O.S)



「女は胆力」

園田天光光 著 平凡社新書 2008年 (K:エッセイ・文学)

1919年（大正8年）に生を享けて、本書を発行した89歳まで「胆力さえ身につけば女に怖いものなし」と納得させてくれる著者の人生が、生き活きと描かれている。

天光光（てんこうこう）は本名である。著者の父が世の中の光になるよう育ててくれと願いをこめられ名付けられた。早くに妻を亡くした著者の父は、戦前にもかかわらず、男女平等の教育方針で4人の娘を育てる。長女である著者は、東京女子大学、早稲田大学を卒業後、終戦を迎え、東京大空襲で焼け野原になった光景と上野駅の惨状を目の当たりにし、生きる運動を始める。

その後、大きな流れに乗って諸派無所属、無派閥の「餓死防衛同盟」から立候補し当選。戦後初の女性衆議院議員となる。同じ衆議院議員で妻子がある園田直氏と恋に落ち、結婚。周囲から中傷、非難がすさまじかったが、何一つ弁解せず胆力で信念を貫きとおす。衆議院議員を3期で退き、厚生大臣、外務大臣となった夫を支えた。

「胆の力を鍛えていれば、どんなに運気の悪いときでも、まだがあると、いつでも『一』から始められます。胆力は澆刺と生きるための女の武器です。胆力は、自由豪胆に生きる勇気を与えてくれます。胆力は、しなやかで強靱です」（6ページ）

胆力を養うためにも、ぜひ、読んでみてください。(K)



「名前のない人」

C・V・オールズバーグ 絵と文 村上春樹 訳

河出書房新社 1989年 (F:子育て)



きれいな黄色のシャツを着た青年が、青い目を剥いて何かを凝視している表紙絵がまず目に止まり、題名にも、訳者が村上春樹というのにも興味がそそられて読んでみた。

全文わずか14ページ、どのページにも一段落しかない短文で、ストーリーはとても簡単。それなのに、とても不思議。

大自然の中で、移り行く季節とともに、平穏に心豊かにくらしているお百姓のベイリーさん一家。そこへ、ある日突然見知らぬ青年が加わる。記憶を失っていた青年は自分の名前もわからない。青年はベイリーさん一家、親子三人の優しさの中で家族の一員のように日々を過ごす。しかし三週間後、彼は突然去って行ってしまふ。ある奇跡を残して。

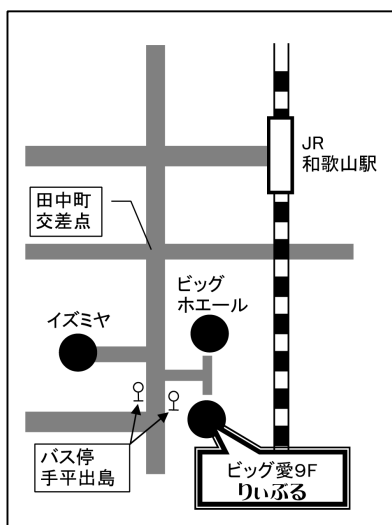
青年は謎めいていて、現実ではありえない、何か納得できない存在なので、うぬ？と思っっては読み返したが、不思議感が深まっただけ。ただ字面を追えば起承転結するのではなく、読者のさまざまな想像力の参加で、物語がふくらみ全うするように思えた。

だから、この絵本を読んだ誰かと「ああでもない、こうでもない」と話し合えたら楽しいだろうなと思った。記憶を失って、名前を失った青年は生育歴や職業や人間関係などの現実の記憶を無くし、ただ人間性とか、感性とか不思議な力とかに満ちた人になったのか。これは自然の摂理にかなっていないと感じた時、それを正す力を発言することができる存在だったのだろうかなどと。

大人も子どもも豊かな想像の翼を羽ばたかせて楽しめる絵本だと思う。(大空)

※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV 資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第4号 (2013年12月発行)

◇企画・発行 りいぶるぷらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】なんと！3号を読んで、ボランティアに参加したいという人が現れました。私たちは“りいぶる”の図書室の本の魅力を伝える活動をしています。一年たちましたが、いろいろな本にまつわる話やら雑談をしながら会を進めてきました。また、来年も続けて活動できますように…。

☆ボランティアスタッフ募集!!!

あなたも書評を書いてみませんか？興味のある方は

libreplus@yahoo.co.jp までe-mailでご連絡ください。